

6月8日 名古屋港管理組合議会6月定例会 山口清明議員

伊勢港の港湾運営会社を設立 名古屋港の課題解決や発展に寄与できるのか

名古屋港管理組合議会の6月定例会で、山口清明議員が一般質問を行いました。

管理運営体制が複雑化しただけでは

伊勢湾で一つの港湾運営会社の設立について山口議員が追及しました。

新たな港湾運営会社の設立によって、名古屋港と四日市の各運営会社に加えて名古屋四日市国際港湾株式会社が誕生します。特例港湾運営会社としての無利子貸し付け等のメリットは新会社が引き継ぎ、従前の会社は施設の管理を行います。

山口議員は「新会社の代表はなぜ四日市と名古屋の2人体制なのか。民間出資の見通しは。3つの会社になって一体運営がすすむのか。議会の監視・チェックは及ぶのか」とたどしました。

企画調整室長は「より安定的な経営を図るため2名に。民間出資は200万円を予定し、名古屋65%、四日市35%で調整中。新会社が両港に関わることで共同の資材調達や営業活動などが新たに可能になる。具体的に何を行うかは新会社が経営計画の中で検討していく。

他の外郭団体と同様に、法人の経営状況について議会に報告する」と答えました。

過大な期待は慎み、冷静に対応を

山口議員は、「新しい運営会社の業務は基本的にハード整備。過大な期待は慎み、やれること、やれないことを見極めて、冷静に対応することが必要」と指摘しました。

名古屋四日市国際港湾株式会社の概要

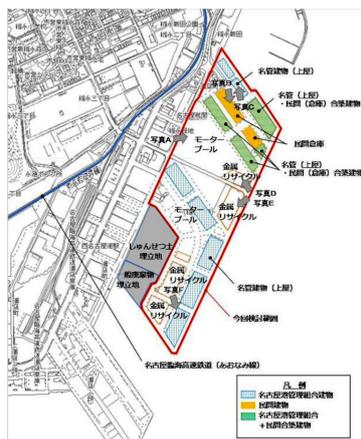
商号	名古屋四日市国際港湾株式会社
所在地	名古屋港区港町1番11号
設立日	平成29年5月17日（登記申請日）
資本金	3,000万円 名古屋港管理組合：1,950万円 四日市港管理組合：1,050万円 今後、民間による第三者割当増資200万円を予定
代表者	・代表取締役会長 石垣英一（1947年生、三重県庁農水商工部長、四日市港管理組合副管理者、三重県副知事、伊勢鉄道社長） ・代表取締役社長 生田正治（1935年生、商船三井社長、同会長、日本郵政公社総裁、名古屋港埠頭株式会社社長）
業務内容	・コンテナターミナルの運営、整備計画の策定 ・無利子貸付金を活用した新たな上物施設の整備、所有、管理 ・国や港湾管理者、名古屋港埠頭株式会社が所有するコンテナターミナル施設（岸壁、荷さばき地、荷役機械等）の借受け ・借り受けたコンテナターミナル施設の貸付け等

上屋の老朽化や安全対策を急げ 立ち入り制限している稲永ふ頭の上屋

築58年の危険な上屋などが・・・

名古屋港のふ頭にある上屋は、船舶が接岸・係留する場所に近いところに設けられ、船と倉庫の間の荷さばきの中継作業が行われ、貨物の一時的な保管場所となる施設で、公営や民営、第三セクターなどの運営形態があります。うち40棟を名古屋港管理組合が運営し、予算上は8億9700万円の収益となっています。

山口議員は、稲永ふ頭北地区の現地調査を踏まえ、稲永ふ頭の築58年の2階建ての上屋



稲永ふ頭

2棟が老朽化で危険な状態となり、ロープで立入制限されている問題を取り上げ、現状と対策をたどしました。

港管部長は「管理組合が所管する上屋40棟のうち13棟が未実施。稲永の上屋も民間事業者と区分所有のため各所有者と調整中」と答弁しました。

年度中に協議し対応

山口市議は「施設運営事業会計には41億円も資金がある。立ち入り制限しながら通常料金を徴収して心苦しくないのか。対応を急げ」と追及し、当局は「緊急性の高い老朽化対策は今年度に協議を行う」と答えました。

